国土交通省 中部地方整備局　　大林・大本・市川ＪＶ

新丸山ダム定礎

安全で快適な流域の暮らしを守るダム再生

ダム式万歳三唱・くす玉開披

来年３月で完成から70年を迎える丸山ダムをかさ上げし、洪水調節機能の強化などを目的として、国土交通省中部地方整備局が建設を進めている新丸山ダム。１９８６年に事業着手し、２０２１年から本体工事が進む同ダムの定礎式が11月24日、岐阜県御嵩町の左岸側の現地で開かれた。式典には国交省の幹部・職員のほか、国会議員や自治体関係者、施工者ら約２００人が出席。ダム本体建設での大きな節目の定礎を祝うとともに、工事の安全と早期完成、ダムの安泰と永久堅固を祈願した。施工は大林組・大本組・市川工務店ｊｖが担当している。

式辞

国土交通事務次官
水嶋　智

木曽川の流域治水の中核に

新丸山ダム建設事業につきましては、これまで付け替え道路工事などを進め、2021年度よりダム本体工事に着手して本日、定礎式を迎えることになりました。これもひとえに木曽川の治水にご理解を賜り、先祖伝来の土地や家屋をご提供いただいた地権者の皆さまをはじめ、地元の皆さまのご協力のたまものであり、深く感謝を申し上げます。

新丸山ダムによる洪水調節機能の強化は、木曽川の流域治水の中核をなすものと認識しており、流水の正常な機能の維持や水力発電も強化することから、河川環境の保全やカーボンニュートラルにも貢献する重要な事業であると考えております。

厳しい現場環境において、丸山ダムが担う治水と発電の機能を維持しながら工事を行う必要があり、高度な技術力が求められる極めて困難な事業です。そのため官民が連携し、わが国最先端の技術を駆使して事業を進めております。治水、利水、環境そして地域振興と、皆さまのご期待に応えられるよう、一日も早い完成を目指し、受注者と共に安全に留意しながら全力で取り組んでまいります。

（式典式辞から抜粋）

祝辞

岐阜県知事
江崎　禎英

県土の強靱化に待ったなし

今年は岐阜県内において大きな洪水被害は発生しておりませんが、昨年８月には西濃地区で約693haの浸水が発生いたしました。また、今年６月の梅雨前線豪雨で高山市や郡上市において家屋浸水被害が発生し、７月には岐阜市でも浸水被害が発生しており、県土の強靱化は待ったなしの状況です。

そのような中、木曽川流域治水プロジェクトの核である新丸山ダムが完成すれば、1983年９月の戦後最大洪水と同程度の洪水を完全に流下させることができ、流域住民の安全、安心が向上するだけでなく、魅力ある観光資源が豊富な木曽川中流域のさらなる発展に寄与するものと大変期待しております。また、ダム建設に伴い進められております国道418号の付け替え道路は、関係住民の皆さまの生活利便性の向上、災害・緊急時の輸送手段となります。

このように大きな事業効果を有する新丸山ダム建設事業の推進をお願いしますとともに、早期完成と工事の安全を心から祈念申し上げます。

（式典祝辞から抜粋）

祝辞

美濃加茂市長
（新丸山ダム建設促進期成同盟会会長）
藤井　浩人

安心して次の世代にバトンを

丸山ダムの完成から70年という日がたちました。このダムの完成によりまして私たちの中流域、下流域は多大なる恩恵をいただき、この70年、大きく発展することができました。しかしながら1983年の９・28災害では大きな被害がありました。1994年の平成の大渇水では特に名古屋を中心とした下流域に大きな被害がありました。それらを受けて1996年に正式に、私が現在大役をいただいております新丸山ダム建設促進期成同盟会が地域の皆さまの熱い思いを支えに発足することができました。

このダムの中流、下流の安全だけではなく、多くの発展をわが国にもたらすことは間違いないと確信し、われわれ地域も一丸となって推進に向けて全力を尽くしてまいりました。本日はまだ定礎式です。ダムが完成してこそ、その効果、恩恵というものは、ようやく国民の方々が享受することができます。そして安心して次の世代にバトンを渡すことができます。われわれ同盟会もより一層の力を込め、完成に向けて尽力してまいります。

（式典祝辞から抜粋）

定礎式　2025. 11. 24

礎石搬入

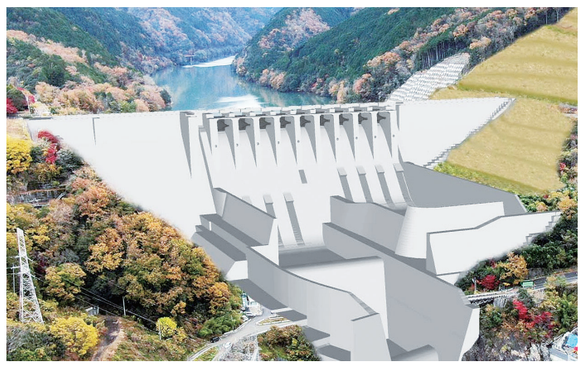
埋納の儀

定礎宣言

国土交通省
中部地方整備局長
森本　輝

新丸山ダムが木曽川水系の治水に寄与し、岐阜県発展の根幹施設として、豊かな地域づくりに限りなく貢献することを祈念し、ここに揺るぎなき永世不朽の礎石を鎮定する。

鎮定（ちんてい）の儀


完成イメージ

現場全景

鎮定（ちんてい）の儀

斎鏝（いみごて）の儀

斎鏝（いみごて）の儀

斎槌（いみづち）の儀

工事報告

洪水調節・発電・環境保全の機能アップ

国土交通省中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所
所長 **浅井　慎一**

新丸山ダム建設事業は、木曽川の河口から約90kmに位置する丸山ダムの下流47.5mの位置に、新丸山ダムが一部重なる形で20.2mかさ上げして機能アップを図るダム再生事業です。新丸山ダムは丸山ダムで行われている洪水調節と発電に、新たに下流の河川環境保全を加えた三つの目的で、より安全で快適な暮らしを支えます。

1980年に実施計画調査を開始し、1986年にダム建設事業に着手しました。1990年５月の特定多目的ダム法に基づく「新丸山ダムの建設に関する基本計画」告示などを経て、1992年３月に損失補償基準に関する協定の妥結を行い、先祖代々住み慣れた貴重な土地をご提供いただき、49戸の家屋移転にご協力いただきました。着実に事業を進めることができたのは、家屋の移転や土地の提供をしていただいた皆さま、工事に関連してご不便をおかけしている丸山地区をはじめとした地域の皆さまのご協力によるものだと深く感謝しております。

2017年４月には転流工着工式、2021年12月にはダム本体建設工事起工式が執り行われました。ダム本体工事につきましては大林・大本・市川特定建設工事共同企業体と契約し、工事を進めており、骨材の製造設備やコンクリート製造設備も完成し、今年３月にはダム本体コンクリートの初打設が行われました。最新のデジタル技術を駆使した自律型コンクリート打設システムの導入に向けた実証実験も進められているところです。

新丸山ダムが完成しますと、木曽川の安全度は大きく向上します。流域の皆さまの安全で安心できる暮らしを実現するため、事業を着実に進めてまいる所存です。引き続き皆さまのご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

地元小学生によるメッセージストーン披露

今後の施工計画

自動・自律化で生産性向上

新丸山ダムＪＶ
工事事務所所長
佐々木　啓次

２０２１年から工事が始まり、ようやくここまで来たと感じています。定礎は節目ではありますが、これからが新たなスタートであり、改めて無事故・無災害で工事が進捗していけるよう、関係者全員で一丸となって取り組むという気持ちを強くしています。

工事の進捗については、２０２５年３月から堤体左岸部のコンクリート打設が始まり、現在は堤体・上段減勢工の施工と併せて、転流工および右岸基礎掘削工を並行して進めている状況です。

既設ダムの再開発事業ということで、当初の想定とは異なる現場状況となっていることが多々あります。さまざまな課題に対して、発注者との連携を密にしながら、迅速な対応を心がけてきました。将来的な人手不足対策として、施工設備の自動・自律化に取り組み、生産性の向上にも一段と注力していきたいと考えています。

近年の自然災害の激甚化・頻発化を踏まえ、地元の皆さまのご期待に応えるべく、新丸山ダムの早期完成に向けて、引き続き無事故・無災害で工事を進めていきたいと思います。

〈新丸山ダム概要〉
■工 事 場 所＝岐阜県八百津町八百津（右岸）、岐阜県御嵩町小和沢（左岸）
■形　　式＝重力式コンクリートダム
■堤　　高＝118.4m
■堤　頂　長＝340.6m
■総貯水容量＝１億3135万㎥
■完 成 予 定＝2036年度

現場関係者らによる記念撮影

◆ 新丸山ダム本体建設工事 ◆　大林・大本・市川特定建設工事共同企業体

株式会社 大林組
名古屋支店　名古屋市東区東桜1−10−19　電話 052−961−5111

OHMOTO 株式会社 大本組
名古屋支店　名古屋市千種区池下1−10−8　電話 052−763−5151

CHIKAWA 株式会社 市川工務店
岐阜市鹿島町6−27　電話 058−251−2242